

平成26年度学校評価実施報告書(全日制)

次のとおり学校評価を実施しましたので報告します。

| 学校目標 | 取組の内容 | | 校内評価 | | 学校関係者評価 | 学校評価 |
|---|---|--|---|--|---|---|
| | 具体的な手立て | 評価の観点 | 達成状況 | 課題・改善方策等 | | |
| <p><教育課程> 生徒の多様な進路実現を踏まえたカリキュラムを充実させ、総合学科としてのカリキュラム編成に向けた検討を実施する。</p> | <p>①履修科目指導、進路説明会において、生徒の進路実現に向けたガイダンスを実施する。 ②「いのちの尊重に関する教育」の推進を図る。 ③将来構想の推進について年次計画を策定する。 ④総合学科としての特性と本校の特色を活かしたカリキュラム編成に向けた検討を行う。</p> | <p>①の取組みを通し、生徒の進路希望に応じた科目選択ができているか。 ②特色ある科目を中心に生徒に意識付けることができたか。 ③年次計画に沿って検討が進んだか。 ④カリキュラム編成に向けた検討ができたか</p> | <p>・生徒の科目選択に役立てるため、今年度より開講科目すべてを掲載する『履修ガイドブック』を作成した。 ・12月にボランティア等生徒の自主的な活動を中心とした「いのちの尊重研究発表会」を実施し、いのちについて学び、考える機会を全校で持つことができた。</p> | <p>・履修ガイドブックが新方式になったため、調整が必要な所が多く、今後も整理を継続する。 ・「いのちの尊重に関する教育」の研究についてはどのようにまとめていくか、今後の方向性を含め、難しい課題である。</p> | <p>(保護者) ・ガイダンスの機会などで「履修ガイドブック」の活用の仕方などを説明してもらえるとよい。 (学校評議員) ・ボランティア活動を含め「いのちの尊重に関する授業」をさらに進めてほしい。「いのちの尊重研究発表会」は生徒に大変よい機会を与えた。 (その他)</p> | <p>(学校評価) ・完成した履修ガイドブックを基にガイダンスを実施し、総合学科として科目選択に有効・有益な手段を提供できた。 ・生徒に「いのち」について学び、考える機会を与えることができたことはよかった。 (改善方策等) ・「いのちの尊重に関する教育」は、次号を総括し、成果をまとめて次につなげる。</p> |
| <p><生徒指導・支援> 生徒の規範意識の確立を図り、豊かな心の育成に向けた取組みを充実させる。</p> | <p>①集会やLHRでの指導を通して生徒の規範意識の向上を図る。 ②教育相談支援体制の拡充を図り、内容の充実を図る。 ③様々な機会を通じて生徒、保護者からの相談に対応する。</p> | <p>①～③の取組みにより生徒が整然と集中して授業に取り組み、充実した学校生活が送れているか。</p> | <p>・今年度はSNSに関係した特別指導が多く、規範意識の向上が図りきれなかった。 ・スクールカウンセラーの活用により生徒、保護者の相談体制ができた。 ・保護者からの相談については管理職で対応した。</p> | <p>・SNSなどの情報の扱ひ方の指導に対して、教員側が研修をし、未然防止に向けて、きめ細かな指導を継続する。 ・従来とは異なる事案について、検討を重ねるとともに柔軟に対応する必要がある。</p> | <p>(保護者) ・礼儀作法や挨拶の励行など、決め細やかに指導されていることには大変評価している。 (学校評議員) ・SNS関連の対応など、埋もれたものを掘り起こす作業が今後の生徒指導に必要である。 (その他)</p> | <p>(学校評価) ・規範意識の向上については、しっかりと出来ているが、更に家庭との連携を図る必要がある。 ・スクールカウンセラーの活用によって教育相談体制が確立された。 (改善方策等) ・ケース会議などにより、一層の教育相談体制の強化を図る。 ・SNS関連のトラブルに対応できる指導力を養成する。</p> |
| <p><学習指導・授業改善> (1) 基礎的学力の定着と発展的学力の伸長を図る。 (2) 授業改善による生徒参加型授業を推進する。</p> | <p>(1) ①確かな学力の育成に向けた研修会や勉強会を行い、授業改善、補講、講座の充実、推進を図る。 ②基本的な知識及び技能を習得させるため、習熟度別学習の充実を推進する。 (2) 校内及び校外の研究授業への積極的な参加を促進し、授業改善を図るとともに校内におけるグループ学習や発表型授業の取組みを推進する。</p> | <p>(1) 組織的な授業改善ができたか。 (2) 生徒が主体的に授業に取り組んでいるか。</p> | <p>・長期休業中に成績不振者及び希望者に対して補講を行い、初期の目標を達成するなど、一定の成果を上げた。 ・授業改善の一環として教科の枠を超え、教員間で授業見学を行い、参考になるところを各自が取り入れた。 ・南が丘中学校の授業研究会に参加し、授業改善に役立たせた。</p> | <p>・進路実現のための補講や講座をさらに充実させる必要がある。 ・授業改善が個人的なものではなく、教科等で統一した方向性を見いだしたい。 ・グループ学習や発表型授業の取組みを一層推進し、生徒参加型授業の改善を図り90分授業の特長を活かした授業作りを模索する。</p> | <p>(保護者) ・保護者が授業や教育活動を見るような機会をもっと増やしてほしい。 ・補講などでより一層確かな学力を育成してほしい。 (学校評議員) ・授業評価については、評価のための評価にならず、授業改善に期するようにPDCAサイクルに取り込んで評価のフィードバックをしてもらいたい。 (その他)</p> | <p>(学校評価) ・長期休業中などの補講は成果を上げているが、学校としての体系化した取組みにはなっていなかった。 ・中学校や他校との連携を取り入れた授業改善が行えたことは評価できる。 (改善方策等) ・補講計画や確かな学力の育成を目的とする講座が学校全体での取り組みとなるよう、改善をする必要がある。 ・授業評価をフィードバックし、PDCAサイクルを活かした授業改善を行っていく。</p> |

| | | | | | | |
|--|--|---|--|--|--|---|
| <p><キャリア教育></p> <p>(1) 生徒の進路実現に向けた体系的なキャリア教育の実施</p> <p>(2) 授業や部活動を通じてリーダーの育成と社会性の向上を図る。</p> | <p>(1) ①キャリア教育実践プログラムの検証を行い、改善に向け検討を行なう。</p> <p>②インターンシップ等への積極的な参加とシチズンシップ教育を推進する。</p> <p>③「秦総大学進学支援プロジェクト」の推進を図る。</p> <p>(2) 授業への積極的な発言、行事への参加促進を図り、リーダーの育成と社会性の向上を推進する。</p> | <p>(1) ①～③の取組みを通して、生徒が満足感を得ることができたか。</p> <p>(2) 生徒が積極的に授業や部活動、行事に取組んだか。</p> | <p>・進路決定状況は、前年度比で進学者が+16名、就職者が-10名であった。</p> <p>・インターンシップ参加者は、約40名で昨年度比+10名であった。この中で、自己の進路決定に結び付いた者もいた。</p> <p>・生徒のおよそ80%が部活動に加入し、地域貢献活動などを通して、社会性を高める取組ができた。</p> | <p>・様々な進路指導を通して、生徒の進路に対する意識をさらに高めることが課題である。</p> <p>・進路実現のための「秦総大学進学支援プロジェクト」充実を図る必要がある。</p> <p>・インターンシップの積極的な参加とシチズンシップ教育をさらに推進するなど、体験的活動の充実を図る必要がある。</p> | <p>(保護者)</p> <p>・生徒一人ひとりの進路実現のため、今後も体系的なキャリア教育を目指してほしい。</p> <p>(学校評議員)</p> <p>・総合学科の枠組みを活かしたキャリア支援教育の道を探ってほしい。</p> <p>・部活動の生徒が地域貢献をしてくれるのは素晴らしい。今後も継続してほしい。</p> <p>(その他)</p> | <p>(学校評価)</p> <p>・インターンシップ参加者は着実に増加しており、キャリア教育実践とともにシチズンシップ教育も一定の推進が確認できた。</p> <p>・「秦総大学進学支援プロジェクト」については、学習指導等とあわせて、更なる推進を図る必要がある。</p> <p>(改善方策等)</p> <p>・生徒に目的意識を持たせ、自らの力で進路実現が出来るようにするため、入学時よりもっと体系的で楽手指導を含めたキャリア教育のプログラムが必要である。</p> |
| <p><地域連携></p> <p>(1) ボランティア活動、あいさつ運動を核とした幼小中・地域との連携を推進する。</p> <p>(2) 防災教育の充実を図る。</p> | <p>(1) ①ボランティアバンクを活用し、延べ2,000名以上のボランティアへの参加を図り、コミュニケーション能力の育成を推進する。</p> <p>②あいさつ運動や交通安全運動において、近隣の幼小中との連携の推進・充実と地域協議会等との連携推進を図る。</p> <p>(2) ①集会やLHRで防災教育を恒常的に実施し、防災意識の向上を図る。</p> <p>②地域防災活動への参加を推進する。</p> | <p>(1) ①～②の取組みで生徒のボランティアや地域連携への意識の向上が図れたか。</p> <p>(2) ①～②の取組みで生徒に防災意識が醸成されたか。</p> | <p>・約1,500名の生徒がボランティア活動に参加した。また、部活動のボランティア活動における小・中学生へのスポーツ指導やあいさつ運動、地域行事などに参加した。</p> <p>・かながわシェイクアウト訓練、地域別集合を行うなど生徒の防災意識の向上を図った。</p> | <p>・今年度はボランティア活動の内容、派遣先について検討を行ったため、派遣先が減少し、参加人数は減ったが内容は充実した。</p> <p>・近隣の大学との授業等で連携を検討したい。</p> <p>・地域と連携した防災教育を引き続き検討する。</p> | <p>(保護者)</p> <p>・ボランティアやあいさつ運動はとてよい取り組みである。今後も継続してほしい。</p> <p>(学校評議員)</p> <p>・地域の防災体制は、高校生のような若い力の活躍なしには成り立たない。今後は地域と密着した行事や防災活動をさらに進展してもらいたい。</p> <p>・地域の声を活かした連携を進めてもらうことが大切だと思う。</p> <p>(その他)</p> | <p>(学校評価)</p> <p>・ボランティアの総数は減少したが、内容は精選され、活動は充実の方向に向かったことは評価できる。</p> <p>・防災への意識を持たせるための訓練等は出来ているか、地域との連携については欠けている部分があった。</p> <p>(改善方策等)</p> <p>・より地域との連携を深めるため、地域の声を聞きながら連携の方法を模索していく。特に防災活動に関しては、地域との共同を更に深め、訓練等も共同で行っていく。</p> |
| <p><学校運営・管理></p> <p>(1) 安全管理・危機管理等を踏まえた連携体制を整備する。</p> <p>(2) 人材育成のための若手教員とベテラン教員の業務交流の推進を図る。</p> | <p>(1) ①職員に現状認識と情報の共有化を図り、積極的に学校運営に参画させ、当事者意識の向上を図る。</p> <p>②円滑な業務遂行のため、業務引継書作成を行い、課題の検証を実施する。</p> <p>③リスクマネージメントを実施し、リスクの把握と改善を検討する。</p> <p>④服務や個人情報の管理、部活動における事故防止等の研修会を実施する。</p> <p>(2) 人材育成のための若手教員とベテラン教員の業務交流の推進を図る。</p> | <p>(1) ①～④を実施し、職員の意識向上と前向きな姿勢を引き出すことができたか。</p> <p>(2) 教員の相互理解と協力体制がより深まったか。</p> | <p>・朝の企画会議や打合せを通じて職員間の情報の共有化を図るとともに不祥事防止に向けた意識の向上を図った。</p> <p>・グループごとに業務引継書を作成し、業務遂行を円滑に行った。</p> <p>・毎職員会議後に不祥事防止会議を開催し、意識の向上を図った。</p> <p>・学校説明会を年間5回開催するとともに中学校を訪問して学校の特色などを紹介した。</p> | <p>・業務内容を見直すとともに、グループ内で情報の共有化を図り、次年度への引継ぎを円滑に行う。</p> <p>・不祥事防止の推進を図るため、点検体制の見直しを行う。</p> <p>・ベテラン教員から若手教員へのノウハウの継承を行い活気のある職場作りを行う。</p> <p>・目的を持って受検してもらうためにも広く広報をする必要がある。</p> | <p>(保護者)</p> <p>・先生方の中で相互理解と意思の統一が出来ていることが大切である。</p> <p>・部活動等での家庭との連絡体制を確立しておくこと。</p> <p>(学校評議員)</p> <p>・学校運営の場面でもPDCAサイクルを取り入れて、前年のフィードバックができるようにしてほしい。</p> <p>(その他)</p> | <p>(学校評価)</p> <p>・企画会議や打ち合わせを活用してグループ間の情報の共有化、意志の疎通を図ることが出来た。</p> <p>・点検体制の確立を図ることが出来、職員全員で不祥事防止の取組を継続することができた。</p> <p>(改善方策等)</p> <p>・グループ間の業務内容に見直しを必要とする。特に業務の特性を考え、効率的な割り振りを行う。</p> <p>・事故、不祥事を防止する体制を一層強化する。職員が意識を持つための研修を行う。</p> <p>・業務引継ぎの更なる効率化を模索する。</p> |